

伊丹福音ルーテル教会 顕現後第二主日礼拝のしおり

2023年1月15日

前奏

招きのことば：詩編 40 編 2-7 節

主にのみ、わたしは望みをおいていた。主は耳を傾けて、叫びを聞いてくださった
滅びの穴、泥沼からわたしを引き上げ わたしの足を岩の上に立たせ しっかりと歩ませ
わたしの口に新しい歌を わたしたちの神への賛美を授けてくださった
人はこぞって主を仰ぎ見 主を畏れ敬い、主に依り頼む
いかに幸いなことか、主に信頼をおく人 ラハブを信ずる者にくみせず
欺きの教えに従わない人は
わたしの神、主よ あなたは多くの不思議な業を成し遂げられます
あなたに並ぶものはありません
わたしたちに対する数知れない御計らいを わたしは語り伝えて行きます
あなたはいけにえも、穀物の供え物も望まず 焼き尽くす供え物も 罪の代償の供え物も求めず
ただ、わたしの耳を開いてくださいました

罪の悔い改めと赦しのことば

会衆： 私たちは生まれつき、自分中心、わがままで、心の中に本当の愛のかけらもありません。思いとことばと行いで、まことの神を軽んじて、となりびとにも愛のない、神の御前に罪人です。神様、ほんとうにごめんなさい。

私たちは祈ります。私たちを救うため あなたがお与えくださった イエス・キリストによって、どうかあわれんでください。アーメン。（短い黙祷を持ちましょう）

牧師： 何でもおできになる神様は、あなたのすべての罪を赦すために、そのひとり子、イエス・キリストを十字架の上で死に渡してくださいました。ですから神様の御言葉をとりつぐ務めに任じられた牧師として、今、あなたがたに宣言します。父と、御子と、聖霊のお名前によって、あなたの罪は赦されました。安心して行きなさい。**アーメン。**

使徒信条

われは、天地のつくり主、父なる全能の神を信ず。

われは、そのひとり子、われらの主、イエス・キリストを信ず。

主は聖霊によりて宿り、おとめマリヤより生まれ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、十字架につけられ、死して葬られ、

陰府(よみ)にくんだり、三日目によみがえり、天にのぼり、父なる全能の神の右に座したまえり。生ける人と死にたる人とを審かんがため、かしこより再びきたりたまわん。

我は聖霊を信ず、また、聖なるキリスト教会、すなわち聖徒の交わり、罪のゆるし、からだのよみがえり、限りなきいのちを信ず。 **アーメン。**

祈り

愛とあわれみに満ちておられる 私たちの父なる神様、心から感謝をいたします。今朝も共に礼拝にあずかり、罪の赦しをいただき、新しいいのちをいただいて 一週間を始めます。

あなたはあなたの大切な独り子、イエス様を私たちにプレゼントとしてお与えくださいました。昔から神様、あなたは私たちの罪を取り除くために、イスラエルの民に小羊をほふる礼拝をお示しになっていました。時満ちてお生まれくださったイエス様は、私たちのために十字架にかかって血を流して死んでくださって、世の罪を取り除く神の小羊となってくださいました。聖書の示す通り、私たちはあなたがイエス様によって私たちの罪を赦して、あたらしい命をお与えくださることを信じ、感謝をいたします。イエス様を神の御子と信じて今年も恵まれて歩みます。どうぞ臆病でわがままで自己主張の強い私たちを、力と愛と慎みの霊で満たしてください、おかれているところでともに歩む人々に実際に役に立つ一年を送るように導いてください。

新型コロナ・ウィルスの感染拡大を防ぐため、緊張感を保たなければなりません。その中でも全て御手にゆだね安心して、あなたの子どもとして 生き生きと生きる日々をお与えください。この祈りを、私たちの救い主であり 主である イエス・キリストのお名前によってお祈りいたします。 **アーメン**

使徒書朗読：コリント人への第一手紙 1章 1-9節

神の御心によって召されてキリスト・イエスの使徒となったパウロと、兄弟ソステネから、コリントにある神の教会へ、すなわち、至るところでわたしたちの主イエス・キリストの名を呼び求めているすべての人と共に、キリスト・イエスによって聖なる者とされた人々、召されて聖なる者とされた人々へ。イエス・キリストは、この人たちとわたしたちの主であります。わたしたちの父である神と主イエス・キリストからの恵みと平和が、あなたがたにあるように。わたしは、あなたがたがキリスト・イエスによって神の恵みを受けたことについて、いつもわたしの神に感謝しています。あなたがたはキリストに結ばれ、あらゆる言葉、あらゆる知識において、すべての点で豊かにされています。こうして、キリストについての証しがあなたがたの間で確かなものとなったので、その結果、あなたがたは賜物に何一つ欠けるところがなく、わたしたちの主イエス・キリストの現れを待ち望んでいます。主も最後まであなたがたをしっかり支えて、わたしたちの主イエス・キリストの日に、非のうちどころのない者にしてください

います。神は真実な方です。この神によって、あなたがたは神の子、わたしたちの主イエス・キリストとの交わりに招き入れられたのです。

福音書朗読：ヨハネによる福音書 1章 29-42節

その翌日、ヨハネは、自分の方へイエスが来られるのを見て言った。「見よ、世の罪を取り除く神の小羊だ。『わたしの後から一人の人が来られる。その方はわたしにまさる。わたしよりも先におられたからである』とわたしが言ったのは、この方のことである。わたしはこの方を知らなかった。しかし、この方がイスラエルに現れるために、わたしは、水で洗礼を受けに来た。」そしてヨハネは証した。「わたしは、“霊”が鳩のように天から降って、この方の上にとどまるのを見た。わたしはこの方を知らなかった。しかし、水で洗礼を受けるためにわたしをお遣わしになった方が、『“霊”が降って、ある人にとどまるのを見たら、その人が、聖霊によって洗礼を受ける人である』とわたしに言われた。わたしはそれを見た。だから、この方こそ神の子であると証したのである。」

その翌日、また、ヨハネは二人の弟子と一緒にいた。そして、歩いておられるイエスを見つめて、「見よ、神の小羊だ」と言った。二人の弟子はそれを聞いて、イエスに従った。イエスは振り返り、彼らに従って来るのを見て、「何を求めているのか」と言われた。彼らが、「ラビ——『先生』という意味——どこに泊まっておられるのですか」と言うと、イエスは、「来なさい。そうすれば分かる」と言われた。そこで、彼らはずいて行って、どこにイエスが泊まっておられるかを見た。そしてその日は、イエスのもとに泊まった。午後四時ごろのことである。

ヨハネの言葉を聞いて、イエスに従った二人のうちの一人は、シモン・ペトロの兄弟アンデレであった。彼は、まず自分の兄弟シモンに会って、「わたしたちはメシア——『油を注がれた者』という意味——に出会った」と言った。そして、シモンをイエスのところに連れて行った。イエスは彼を見つめて、「あなたはヨハネの子シモンであるが、ケファ——『岩』という意味——と呼ぶことにする」と言われた。

讚美歌 190番

- 1 天(あめ)よりくだり 人となりし 上なき知恵を ほめたたえよ
み文(ふみ)のうちに 輝きいで 我らの道を 照らしたもう
- 2 この世をひろく 照らせよ とて たまいしみ文(ふみ) 尊きかな
たぐいもあらぬ こがねの箱 まことの賜(たま)は 内に満てり
- 3 船路を霧の 閉ざすときも 行く手を示す 灯(ともしび)なり
波風すさぶ 海原をも しるべとなりて 導き行く
- 4 浮き雲はれて 闇は消えて 親しく君(きみ)に まみゆるまで
よるずの国に この光を かかぐるつとめ なさせたまえ アーメン

説教：「世の罪を取り除く神の小羊」

私たちの父なる神様と御子イエス・キリストから、恵みと平安が豊かにありますように祈りつつ、御言葉をとりつぎます。

バプテスマのヨハネがイエス様を見て人々に、御覧なさい、この方は世界の罪を取り除く神様の小羊です、と言って紹介しました。そこでその背景となる旧約聖書のお話を少しします。

昔イスラエルの民がエジプトの国に奴隷として捕えられていたときに、神様は民を救い出すためにモーセと言う指導者を立てました。モーセはエジプトの王様ファラオと交渉しましたが、イスラエルの民を解放する約束をしてくれません。神様はファラオに災いを予告します。それは、王様の子どもでもしもべの子どもでもエジプトにいる者は、神様が通るときにその長男の命が絶たれるという恐ろしい予告でした。出エジプト記の12章を見ると、神様はモーセに命じてエジプトにいたイスラエルの民に小羊を用意させました。家庭ごとに傷のない雄の小羊を一匹用意し、皆で夕暮れに小羊を屠ってその血を取り、家の入口の二本の柱と鴨居に血を塗るようにと命じました。神様が長男の命を取るために来られる夜、神様は玄関の鴨居と柱に血が塗られている家庭の前は過ぎ越すという約束をしてくださいました。その通りになり、ファラオは民を解放しました。それ以来、神様がイスラエルの民を滅びから救ってくださった記念の日として過ぎ越しの祭りをを行うようになりました。イエス様は神の小羊と言われました。ちょうど過ぎ越しの祭りの日に十字架にかかって死んでくださり、血を流してくださいました。

さて、モーセは民をエジプトから導き出してシナイ山という山に導かれました。そこで神様はモーセに教え、十戒の板を与えてくださいました。モーセは山をおりて、神様の教えてくださった通りに民に伝えました。奴隷状態から解放されて全く新しい歩みをするイスラエルの民に、どのように暮らしていくかを教えました。神様はエジプトから導き出された民が、いつも神様に愛されて、神様が共にいてくださることを確信できるように計らってくださいました。民は神様に何度も逆らう自己中心でわがままな人びとでした。また、少し担いきれない苦しみに会うとまことの神様ではない自分たちの偶像をつくって拝んだり犠牲を捧げたりすることもありました。ですから神様はご自分の方から、神様が民の罪を赦して、共にいてくださることを民が確信できるように、神様の礼拝を定め、民に教えてくださいました。大切なことの中に日ごとのささげものがありました。民の代表として祭司たちがこのささげものを行うときに、神様は「わたしはあなたがたと親しく出会い、語りかける、わたしはイスラエルの人びとのただなかに宿る。わたしがイスラエルの神となる。民もわたしがエジプトから導き出した神、主であることを知る」と約束なさいました。民の毎日の罪を赦して、神様は毎日いきいきとイスラエルの民をご自分の愛する民として、出会い、語りかけて導いてくださったのです。

出エジプト記の29章に書き残されていますが、そのささげものは小羊でした。一才の雄羊を、毎日朝晩小麦粉とブドウ酒と共に燃やします。民は白い煙が民の間であがっているのを見ながら、神様は小羊のゆえにわがままな私たちの罪を赦して、神様に豊かに導かれて日常生活を送

ることができるということを確認できました。バプテスマのヨハネはイエス様が来られたのを見て、この方こそ神様の小羊です、世の罪を取り除く方です、と紹介しました。イエス様は一度あげられて十字架にかかって死んでくださいました。小羊は毎日朝晩屠られていましたが、それは傷のない完全な小羊であるイエス様が十字架で死んでくださることを待つための民の営みでした。イエス様を仰ぎ見るときに、確かに神様は私たちの世界中の罪を取り除いて、私たちの神様となってくださっており、また私たちが罪から救ってくださった神様の民であることを確信して喜ぶことができます。

旧約聖書のお話が長くなりましたが、イエス様はこのように昔からイスラエルの民に予告されていた救い主として来てくださいました。長い間待ち望まれていた救い主です。それはイスラエルの民のためだけではなく、世界の救い主です。イエス様に洗礼をさずけたとき、聖霊が鳩のようにくだったのを見て、この方こそ神の御子だとわかったバプテスマのヨハネは、人びとにイエス様を紹介しました。これからお働きを始められるイエス様を「世界の罪を取り除く神様の小羊」と人々に伝えました。イエス様は過ぎ越しの小羊、また日ごとのささげもの小羊をもって民が待ち望んでいた世界のまことの救い主として来てくださったのです。

それは私たちにも喜ばしいことです。私たちも自分中心でわがままな者です。自分から人生のわざわいを招き、周りにわがままをふりまき迷惑をかけます。また、周りの人びとも自分中心でわがままですから、互いにいろいろな被害を与えています。神様は神様から心離れてしまって、自分が神様から離れていることもわからなくなり、ましてや自分から神様のもとへと戻れなくなっている世界の人びとのために救い主をお送りくださいました。神の小羊であるイエス様です。神様はイエス様が十字架にかかって死んでくださったことによって、私たちの罪を赦してくださいました。そしてイエス様は聖書のみ言葉を通し、また洗礼や聖餐式を通して私たちのところに今日も来てくださっています。このように礼拝で毎週神様からイエス様によって罪を赦され、新しいいのちをいただいている確証をいただいて、迷いやすい私たちはいつも礼拝の恵みを覚えて毎日、朝晩、歩むことができます。神様にすべての罪が赦されています、と宣言されて喜び、まわりの人びとの罪を赦して共に幸せをつくっていく新しいいのちをいきいます。神の小羊として十字架にかかってよみがえってくださったイエス様が私たちの救い主となってくださり、私たちもイエス様によって神の子としていただきました。

バプテスマのヨハネは、何度も人々にイエス様を紹介しました。あるときふたりの自分の弟子たちといるときに、歩いているイエス様を見かけたので、「ごらんささい、この方が神の小羊です」と言いました。するとその弟子たちがふたりともイエス様についていってしまいました。ヨハネはそれを願っていたのでした。バプテスマのヨハネはヨルダン川のほとりで「悔い改めなさい、天の国は近づいた」と説いて、悔い改めた人々に水の洗礼を授けていました。たくさんの人びとが方々から来てヨハネのことばを聞いていました。ヨハネの弟子になるひともしました。そしてついに、そのイエス様が来られたのです。自分の罪を反省し悔い改めることは、

イエス様を信じて従うことの備えです。私たちは神様から自分の罪を示されると、神様ごめんなさい、と悔い改めの祈りに導かれます。イエス様がいないと、そこで反省して、これからもう二度と同じ間違いをしませんから、どうぞ今回は大目に見てください、という祈りになってしまいます。けれどもそうではありません。神様が私たちに自分の罪を教えて悔い改めに導かれるのは、その罪をすべて赦して、新しい命を与えてくださるイエス様がいらっしゃるからです。ヨハネはそのイエス様のことを紹介しました。自分の弟子たちがイエス様についていくことを喜びました。

二人の弟子のうち一人はアンデレという名前でした。悔い改めてヨハネの弟子となっていたアンデレは、ヨハネに言われて神の小羊であるイエス様にお出会いし、イエス様を信じて、イエス様に従っていく弟子になりました。それはアンデレ自身にとって驚きであり、喜びでした。イエス様によって自分の全ての罪が赦されるとわかったら、誰かに伝えなくてはおれなくなりました。まだみんなそのことを知らないで、救い主を待ち続けているからです。いや、救い主が来られることさえ考えていないからです。アンデレは自分の兄弟のシモンのところへ行って、直接こう言いました。「シモン、私たちは待ち望んでいた救い主、メシアに会ったよ。」そう言ってシモンをイエス様のところにお連れしました。イエス様は一人一人をご覧になってくださいます。シモンに対して、わたしはあなたをこれからケファと呼ぶことにする、と言って喜んでくださいました。ケファとは「岩」という意味だと記されています。シモンは単に兄弟アンデレに連れてきてもらった人というのではなくて、イエス様はシモンをひとりの人として見てくださいました。イエス様は出会ったその時に、シモンの中にこれからイエス様のことを固い確信を持って人々に伝えていく教会の柱のひとりになることを見抜いて、大切にされました。

私たちも何かのきっかけがあってイエス様に出会いました。イエス様は私たち一人一人を大切にご覧になってくださり、わたしはあなたを大切にする、と言われるのです。そんなイエス様をペテロは生涯をかけて人々に伝えていきました。神様は私たちの今週の歩みもそんな喜びに満ちたものとしてくださいます。罪を赦された体験者として、人びとの間で暮らします。人々の罪を赦し、人々と共に幸せをつくり、人びとに救い主をお伝えします。どんなことがあっても、神の小羊であるイエス様によって私たちには神様が共にいてくださっている確信があります。今週も主が豊かに私たちを導き支えてくださいます。

その翌日、ヨハネは、自分の方へイエスが来られるのを見て言った。「見よ、世の罪を取り除く神の小羊だ。」ヨハネによる福音書 1 章 29 節

人知をはるかに超えた神様の平安が、あなたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってくださいます。アーメン

讚美歌 142 番 献金 献金感謝の祈り

1 さかえの主イエスの 十字架をあおげば、世の富、誉れは 塵にぞ ひとしき

- 2 十字架のほかには 誇りはあらざれ、この世のものみな 消えなば 消えされ
- 3 見よ、主のみかしら み手、み足よりぞ、恵みと悲しみこもごも流るる
- 4 恵みと悲しみ ひとつに溶け合い、茨(いばら)は まばゆき かむりと輝く
- 5 ああ、主の恵みに 報ゆる すべなし、ただ身とたまとを ささげてめかずく **アーメン**

主の祈り

天にましますわれらの父よ、願わくはみ名をあがめさせたまえ。みくにを来たらせたまえ。
みこころの天になるごとく地にもなさせたまえ。われらの日用の糧を今日も与えたまえ。
われらに罪をおかす者をわれらが赦すごとく、われらの罪をもゆるしたまえ。
われらを試みにあわせず、悪より救い出したまえ。
国と力と栄えとは、限りなくなんじのものなればなり。アーメン。

頌栄：讚美歌 543 番

主イエスの恵みよ、父の愛よ、御霊のちからよ、あぁみ栄えよ **アーメン**

祝福の言葉

仰ぎこいねがわくは、私たちの主、イエス・キリストの恵み、父なる神の愛、聖霊の親しき
お交わりが、御前に集う一同とともに、今日も、この一週間も、いく久しくとこしえまでも、
豊かにありますように。 **アーメン**

後奏